

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	: ファインホール
会社名	: 共立製薬株式会社
住所	: 〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-11-5
担当部門	: 品質保証部
電話番号	: 03-3264-7196
FAX 番号	: 03-3264-0733
メールアドレス	: hinshitsu@kyoritsuseiyaku.com

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分外

自然発火性液体 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 分類できない

皮膚腐食性／刺激性 : 区分 2

眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 : 区分 2A

皮膚感作性 : 区分 1

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 分類できない

生殖毒性 : 区分 2

特定標的臓器毒性（単回暴露） : 区分外

特定標的臓器毒性（反復暴露） : 区分 1（甲状腺）

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 : 区分 2

水生環境慢性有害性 : 分類できない

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 皮膚刺激
 : 強い眼刺激
 : アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 : 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
 : 長期にわたる又は反復暴露による臓器の障害
 （甲状腺）
 : 水生生物に毒性

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

成分名	本品 100g 中
ノノキシノール・ヨード (有効ヨウ素)	13.0g (1.75g)
水等	残

通知すべき成分：ポリオキエチレンノニルフェニルエーテル
(ノノキシノール・ヨードに含有する)

成分名	CAS 番号	化審法 官報公示整理番号	安衛法 官報公示整理番号
ポリ (オキシエチレン) ノニルフェニルエーテル	9016-45-9	7-172	既存化学物質

化学物質排出把握管理法：第一種指定化学物質
ポリ (オキシエチレン) ノニルフェニルエーテル
政令番号 1-410

4. 応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。必要に応じて医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	: 直ちに石けんで洗い落とし、多量の水で洗い流す。必要に応じて医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用の場合、容易に外せる場合は外し、洗浄する。必要に応じて医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	: 直ちに水で口の中を洗浄する。必要に応じて医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

消火方法	: 周辺火災の場合、周辺の設備などに散水して冷却し、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。消火活動は風上から行う。
適切な消火剤	: 水、泡、粉末、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	: 情報なし

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	: 作業の際は適切な保護具を着用し、飛散したものが、皮膚に付着したりしないようにする。
保護具及び緊急時措置	
環境に対する注意事項	: 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	
回収、中和	: 漏洩した液は、けいそう土などに吸着させて空容器に回収する。漏洩した場所は、多量の水を用いて洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意事項	
技術的対策	: 皮膚に付いたりしないように適切な保護具を着用する。
注意事項	: 使用期限が過ぎたものは使用しない。 : 誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえない。
保管上の注意事項	
保管条件	: 室温保存する。 : 直射日光及び高温を避ける。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	: 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。
管理濃度	: データなし
許容濃度	: データなし
保護具	
呼吸器の保護具	: 保護マスクを着用する。
手の保護具	: 保護手袋を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡を着用する。必要に応じてゴーグル型又は保護面等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観及び溶解性	: 褐色の液体で水に溶ける。
---------	----------------

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	: 通常の手扱いは安定である。
危険有害反応性の可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 情報なし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）

: データがなく、分類できないとした。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

ポリオキエチレンノニルフェニルエーテル : ボランティアに本物質を適用した複数の報告において、本物質による皮膚刺激性が報告されていることから、本物質はヒトに対して皮膚一次刺激性を示すと記載されている（NITE 有害性評価書（2007））。また、ウサギを用いた皮膚刺激性試験において EO 2～9 の適用により、中等度から強度の刺激性を示したとの報告や、EO 10 以上の原液の適用により無刺激性又は軽度の刺激性を示したとの報告がある（NITE 有害性評価書（2007））が適用時間等の詳細は不明である。以上、ヒトにおいて一次刺激性を示した。

ヨウ素 : ラットを用いた試験（吸入ばく露）において重度の浮腫、紅斑、落屑がみられ、腐食性を示すが、これらの影響は重度とは考えられないとの報告（EPA pesticide（2006））や、本物質の影響として皮膚腐食性あり（PATTY（6th, 2012））との記載があるが、ばく露時間や非可逆的影響についての記載はない。

また、本物質の蒸気はヒトの皮膚に対して刺激性を示した（PATTY（6th, 2012））との記載や、局所作用として皮膚の水ほうを起こす（産衛学会勧告（1993））との記述がある。

以上の結果から、本製品を区分 2 とした。

眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性

ポリオキエチレンノニルフェニルエーテル : ウサギを用いた眼刺激性試験において、EO 2～15 の原液の適用により中等度から強度の刺激性を示したと報告がある（NITE 有害性評価書（2007））。

ヨウ素 : 本物質の蒸気はヒトの眼や臉に対して刺激性を示した（PATTY（6th, 2012））との記載や、動物の粘膜に対して強度の刺激作用を示す（ACGIH（7th, 2001））との報告がある。

以上の結果から、本製品を区分 2A とした。

皮膚感作性

ヨウ素

: 本物質は、日本産業衛生学会許容濃度勧告で感作性物質：皮膚第 2 群にリストアップされている（日本産業衛生学会許容濃度勧告（2014））。また、アレルギー性皮膚炎（PATY（6th, 2012））や、アレルギー反応による発疹（ACGIH（7th, 2001））の報告がある。
以上の結果から、含量に基づき、本製品を区分 1 とした。

生殖細胞変異原性

: データがなく、分類できないとした。

発がん性

: データがなく、分類できないとした。

生殖毒性

: EO の付加モル数 9 の本物質（EO 9）を妊娠ラットに器官形成期（妊娠 6～15 日）、又は全妊娠期間（妊娠 1～20 日）に強制経口投与した発生毒性試験において、器官形成期投与では 250 mg/kg/day 以上で母動物に体重増加抑制及び同腹児数の減少、胎児に過剰肋骨の増加がみられたのに対し、全妊娠期間投与では 500 mg/kg/day の胎児に骨盤腔の拡張がみられたのみであった（NITE 有害性評価書（2007）、環境省リスク評価第 5 巻（2006））。したがって、母動物毒性発現量で同腹児数の減少がみられたため、本項は区分 2 とした。なお、EO 9 を妊娠 1 日目の妊娠ラットの子宮角に単回注入し、妊娠 8～12 日に帝王切開した結果、0.5 mg/匹 注入群で妊娠率及び平均胚数の減少がみられたとの報告（NITE 有害性評価書（2007）、環境省リスク評価第 5 巻（2006））、並びに NPE9 を妊娠 3 日又は同 7 日の妊娠ラットに単回腔内投与（50 mg/kg）し、妊娠 6～15 日又は妊娠 8～15 日に帝王切開した結果、胚着床数の減少、吸収胚数の増加がみられたとの報告がある（NITE 有害性評価書（2007））。
以上より、含量に基づき、製品として区分 2 とした。

特定標的臓器毒性（単回暴露）

ヨウ素

: 本物質の蒸気やミストは、ヒトの吸入ばく露で気道刺激性、咳、頭痛、胸部圧迫感、嘔吐、腹痛、下痢、経口摂取で、腹痛、嘔吐、下痢、胃腸管の腐食性傷害の報告がある（産衛学会許容濃度の提案理由書（1968）、ACGIH（2008）、CICAD 72（2009）、PATY（6th, 2012）、HSDB（Access on September 2014））。実験動物のデータはない。
以上より、本物質は気道刺激性を有するが、含

量に基づき、製品として区分外とした。

特定標的臓器毒性（反復暴露）

ヨウ素

：ヒトでヨウ素の慢性的な過剰摂取では、甲状腺の機能低下症、又は機能亢進症を引き起こす可能性があり（CICAD 72（2009）、ATSDR（2004）、8 mg/kg/day（約 560 mg/day）超の極端な過剰量では甲状腺機能亢進を、それ以下では同機能低下症を生じる（ACGIH（2008））と記述されている。

実験動物では自己免疫性甲状腺炎を多発する系統のラット、又は胸腺除去処置した汎用ラットに、いずれも 0.05%のヨウ素を含む飲水を 8 週間又は 12 週間投与により、甲状腺重量増加、抗サイログロブリン抗体の増加を伴い、リンパ球浸潤の組織像を呈する自己免疫性甲状腺炎の頻度増加がみられた（CICAD 72（2009））。また、ラットに本物質を 10 週間混餌投与した試験において、0.015-0.23 mg/kg/day の用量範囲で用量相関性のある甲状腺重量及び抗サイログロブリン抗体の増加がみられた（CICAD 72（2009））。

以上より、製品として区分 1（甲状腺）とした。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

ポリオキエチレンノニルフェニルエーテル
：甲殻類（ミシッドシュリンプ）の 48 時間 LC50（NPE9、分岐型） = 0.71-2.2 mg/L（環境省リスク評価第 7 巻, 2009）である。

ヨウ素

：甲殻類（オオミジンコ）による 48 時間 EC50 = 0.16 mg/L（ECETOC TR91, 2003）である。含量に基づき、製剤として区分 2 とした。

水生環境慢性有害性

：データがなく、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

廃棄する場合には、都道府県又は市町村条例等に従い処分すること。

14. 輸送上の注意

容器が転倒、落下、破損しないように充分注意するとともに、輸送前に破損や漏出がない事を確認する。

15. 適用法令

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律	：動物用医薬品
毒物及び劇物取締法	：対象外
労働安全衛生法	：対象外
消防法	：非該当
化学物質排出把握管理法	：第一種指定化学物質 ポリ（オキシエチレン）ノニルフェニルエーテル 政令番号 1-410

16. その他の情報

引用文献

- ・ 自社データ
 - ・ (独) 製品評価技術基盤機構 GHS 分類結果
 - ・ 安全衛生情報、GHS 対応 モデル SDS 情報
 - ・ NITE 化学物質総合情報提供システム
-